2024 年度薬害教育研究班の成果について
――研究班ホームページ制作を中心に――

矢﨑千華（関東学院大学）

薬害教育研究班は、今年度も昨年度と同様に「記録から展示へ」という研究班の方針に沿って活動した。昨年度に引き続き、展示の参考となる各地の資料館等訪問について継続した。一方、2024 年度は 3 か年計画の最終年度でもあり、これまでの研究班の成果を発信する薬害ポータルサイト（薬害資料データ・アーカイブズの基盤構築・活用に関する実践的研究 2025）の作成を中心とした活動を行い、公開に至った。後者に関連した活動の比重が大きかったこともあり、前者については最小限のものとなったが、これらについて以下のとおり報告する。

１．各地の資料館等訪問

2023 年度にもいくつかの資料館等へ訪問・聞き取りを行なったが、2024 年度においても調査を継続した。とはいえ、研究班のホームページ作成に注力したこともあり（**2.**）、訪問先は下記の 1 カ所となった。

〇資料館訪問について

	調査日	調査地	調査者
①	2025 年 2 月	学校法人北里研究所北里柴三郎記念博物館（東京都港区）	矢﨑

北里柴三郎記念博物館（①）は、北里大学白金キャンパス内にある施設である。北里柴三郎（1853～1931 年）は、破傷風の血清療法を確立し、ペスト菌を発見したことでも知られる細菌学者である（パンフレットには「近代日本医学の先覚者――北里柴三郎」と記載）。この博物館では、彼の経歴と業績に関するパネルや仕事道具が展示されている。大型モニターで親族の語りを中心にした映像も流されていた。また、新札導入後間もないこともあって、紙幣にまつわる展示もされていた。

昨年度に訪問したような公害や戦争関連の資料館のように、対外的に学習機会を提供することもその目的の一部としている資料館とは異なるものの、限られたスペースでコンパクトにまとめられており、簡明な展示となっていた。

○「健康と福祉を守る明るい生活展」について

上記の通り、2024 年度は薬害教育の参考となる資料館や博物館への訪問は少なかったが、医薬品や医療に関連するような、薬害教育に通じる展示が過去に実施されていないのかについて文献調査を行なった。そして、「健康と福祉を守る明るい生活展」が厚生省（当時）によって実施されていたことがわかった。現時点ではこれについてのまとまった十分な記録を見つけることはできていないが、これまでに明らかになった点は以下のとおりである。

「健康と福祉を守る明るい生活展」は、厚生省設置 20 周年記念事業として 1958（昭和 33）年から 1959（昭和 34）年にかけて実施されていたものである。記念式典と併せての開催である。管見の限り、これに関する資料は少ないものの、「厚生行政全般にわたつて総合的な解説を行つたもの」（橋本 1958: 序）で、1958 年 10 月の東京日本橋三越を皮切りに全国 8 カ所（東京、名古屋、小田原、広島、山形、滋賀、京都、宮崎（1959 年 9 月 14 日時点では予定））で開催されている（厚生省 1959）。東京日本橋三越での開催初日には当時の皇太子（現上皇）の訪問があったことが新聞で報道されている（1958 年 10 月 1 日読売新聞夕刊、1958 年 10 月 1 日朝日新聞東京夕刊）。

関係者にのみ配布されたと思われるアルバム（厚生省 1959）によると、医薬品に関しては「医薬品の製造と監視・日本人による薬の発見」「薬の買い方・使い方」「家庭薬と新薬」といった内容の展示が行われている。会場正面入口に設けられたパネルには「明るい生活への願い―健康で文化的な生活を―　これが私たちの共通な願いである。このためには国も国民も一体になつて、その妨げとなる病気や悪い環境と斗い、これに打ちひしがれた人々に力を貸し添え、みんなで希望と笑いに満ちた明るい日々を作り出さなければならない……」とある（厚生省 1959）。この文章からもわかるように、展示会全体では子どもの健康や成人病、結核といった多岐にわたる内容の展示があり、その中のひとつに医薬品に関わるものも含まれている。全体でパネルは 85 枚、これを中心としてパノラマ・ジオラマを配置し、東京会場では医療機器の実物の展示も行われていた（厚生問題研究会 1959: 51）。『厚生』では、当時の厚生行政を総合的に

扱っているために、「見た目にはバラバラの感じ」でそれぞれの問題を掘り下げて解説することができていなかったと指摘されている。福祉部門の取り上げられ方が充分でなかったという声もある（全国社会福祉協議会編 1959: 68-9）。

1958 年から 1959 年当時は薬害スモンやサリドマイド薬害の被害が生じている状況である。展示内容の詳細について把握することによって、医薬品をめぐる状況が市民にどのように伝えられていたのかについて明らかになるであろう。また、展示会自体がどのような企画であったのか把握することによって、そういった「歴史」を踏まえたものとして今後の薬害研究資料館の展示も位置付けられると考えられる。

２．薬害ポータルサイトの制作

冒頭でも触れたように、2024 年度は 3 か年計画の最終年度あり、その成果として本調査研究班の活動を発信するホームページ（「薬害（D.I.S）ポータルサイト、https://disarc.org/）を制作し公開した（薬害資料データ・アーカイブズの基盤構築・活用に関する実践的研究 2025）。

このサイトでは、これまで薬害について学習したことがない初学者であっても、それぞれの薬害に関する基本的な知識が得られる内容となることを重視し、各薬害の概要や略年表を作成した。

ホームページの構成は以下のようになっている。下線が引かれている項目は、薬害教育研究班が主に関わったコンテンツである。

① このサイトについて
② サイトマップ
③ 薬害関連リンク
④ ご利用規約
⑤ お問い合わせ
⑥ 各薬害概要
⑦ 年表
⑧ 所蔵資料
⑨ 被害の肖像
⑩ 文献紹介

各薬害の概要(⑥)については、200 字程度の簡略版と 2,000 字程度の詳細版を設け、簡略版にはその薬害に関わる出来事についての略年表も置いた。簡略版からその薬害の大要を押さえ、学習の必要に応じて詳細版を確認するという学びの動線を想定している。

とはいえ、それぞれの薬害の当事者や研究者が各薬害について記述したテキストとは異なり、『薬害を学ぼう』(厚生労働省 2025)のほかに、ある程度情報の水準を統一した初学者向けのテキストを作成することの困難さがこの取り組みを通じて浮き彫りになった。

また、各薬害とそれらに関係する薬事行政の変遷について確認することのできる年表も作成した(⑦、1930 年代から 2020 年代まで)。年代表記を画面の中央に表記し、その左側に各薬害に関する出来事を、右側に薬事行政・日本の動きに関する出来事を配置し、スクロールすることで順に表示されるよう工夫した。

③では「薬害被害者団体連絡協議会」、「薬害オンブズパースン会議」、「薬害を学ぼう」、「医薬品医療機器総合機構」を記載している。また、⑩では薬害についてより深く学ぶことのできる文献として、『薬害とはなにか――新しい薬害の社会学』(本郷・佐藤編 2023)で推薦しているものを土台に紹介している。

⑧および⑨については、準備が整い次第順次公開の予定である。とくに⑨に関して、現時点では各薬害概要や年表はテキストが中心になっているため、教育の効果と関係すると考えられる画像(写真)や音声などの充実についても、一般社団法人薬害研究資料館とも連携して進めていく必要がある。

３．今後の課題

昨年度の研究報告では、「各地の資料館等での教育実践についての聞き取りに加えて、当事者も含めて教育プログラムに実際に参加する機会を得る」ことが今後の課題であると記載していたが、今年度そういった活動を実施することはできなかった。この残された課題に加え、今後は薬害ポータルサイトを充実させながら、国際発信にも活用できるよう英文バージョンの作成を行う、より多くの人の目にとまるようスマートフォン表示対応を行うといったことについても検討していきたい。

【参考文献】

橋本龍伍，1959,「序」『健康と福祉を守る明るい生活展』（写真アルバム）.

本郷正武・佐藤哲彦編，2023,『薬害とはなにか――新しい薬害の社会学』ミネルヴァ書房.

厚生問題研究会，1959,「回を重ねる『明るい生活展』」『厚生』，14（3）.

厚生労働省，2025,「薬害を学ぼう」（2025 年 5 月 9 日取得，https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_yakugaiwomanabou.html）.

厚生省，1959,『健康と福祉を守る明るい生活展』（写真アルバム）.

薬害資料データ・アーカイブズの基盤構築・活用に関する実践的研究, 2025,「薬害（D.I.S）ポータルサイト」（2025 年 5 月 9 日取得，https://disarc.org/）

全国社会協議会編，1959,「昨年の社会福祉広報から」『社会事業』42（2）.